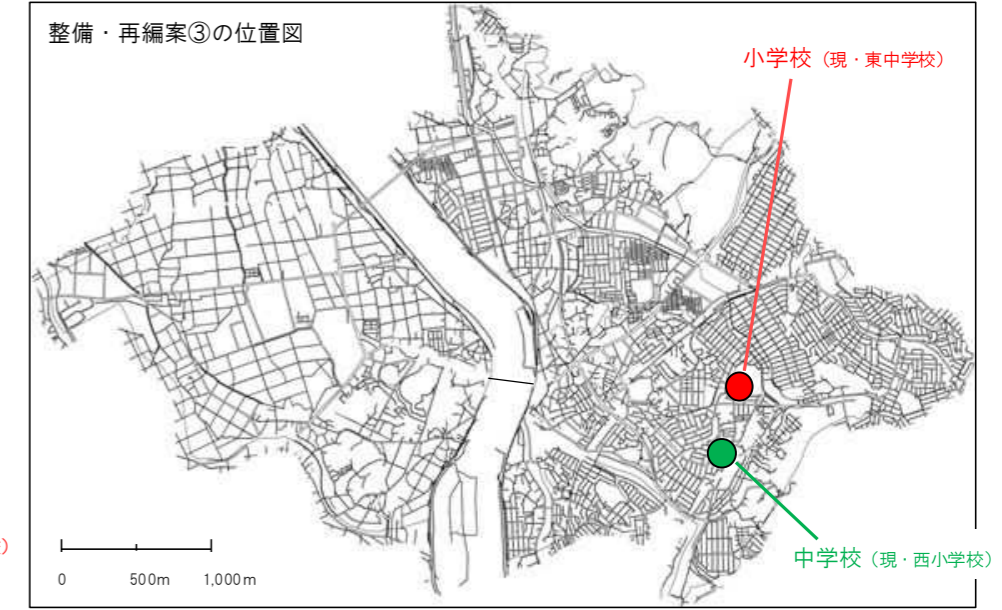
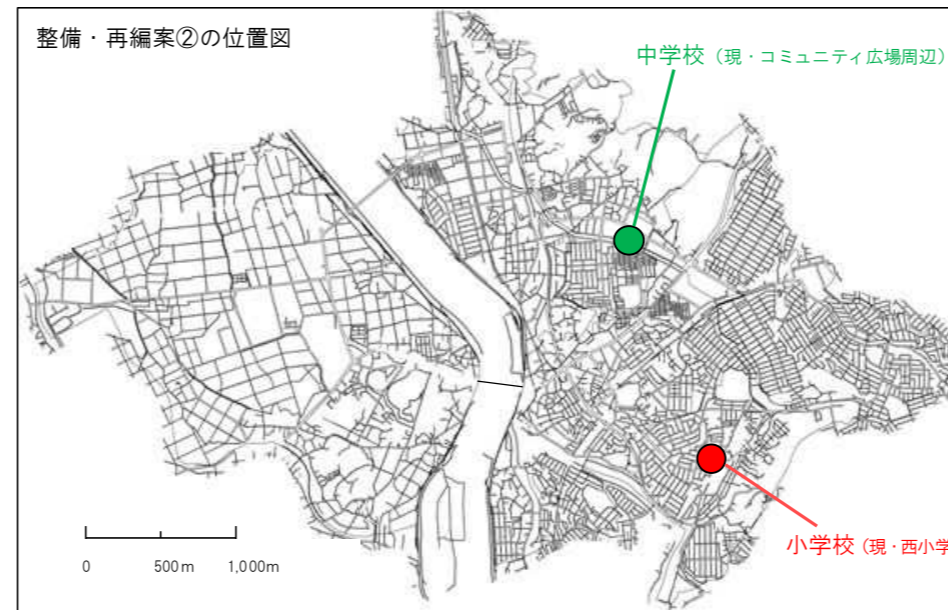
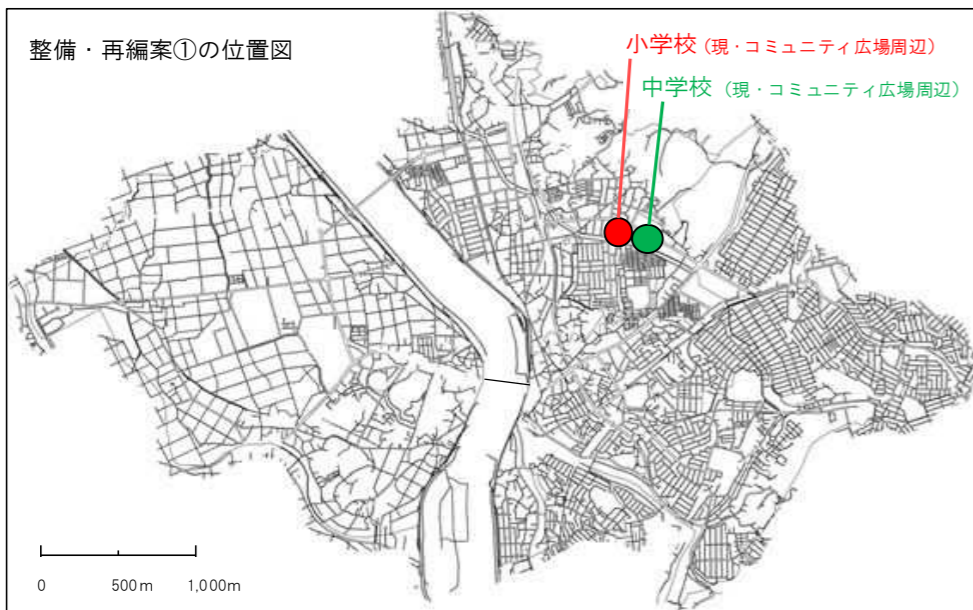


再編案①、②、③ 比較検討資料【小学校 1校、中学校 1校】

案	再編後の学校数		再編後の学校配置	敷地面積 (㎡)	必要面積 (㎡)	建設費用(億円)		市費負担額(億円)		純売却益 (億円)	維持管理費 (万円)	2019年			2040年		
						新築	長寿命化+増築	新築 (建設費用*0.2)	長寿命化+増築 (建設費用*0.267) ※増築部分は0.2			児童・生徒数	学級数	規模別	児童・生徒数	学級数	規模別
①	小学校	1	コミュニティ広場周辺	34,952	23,221	75.3	-	15.1	-	53.1	1,437万円	1,885	49	過大規模校	1,011	35	過大規模校
	中学校	1			19,713							920	24	大規模校	525	17	適正規模校
②	小学校	1	(現)中間西小学校	29,116	23,221	75.3	67.2	15.1	-	56.6	1,437万円	1,885	49	過大規模校	1,011	35	過大規模校
	中学校	1	コミュニティ広場周辺	34,952	19,713							920	24	大規模校	525	17	適正規模校
③	小学校	1	(現)中間東中学校	47,879	23,221	75.3	57.9	15.1	-	38.2	1,437万円	1,885	49	過大規模校	1,011	35	過大規模校
	中学校	1	(現)中間西小学校	29,116	19,713							920	24	大規模校	525	17	適正規模校



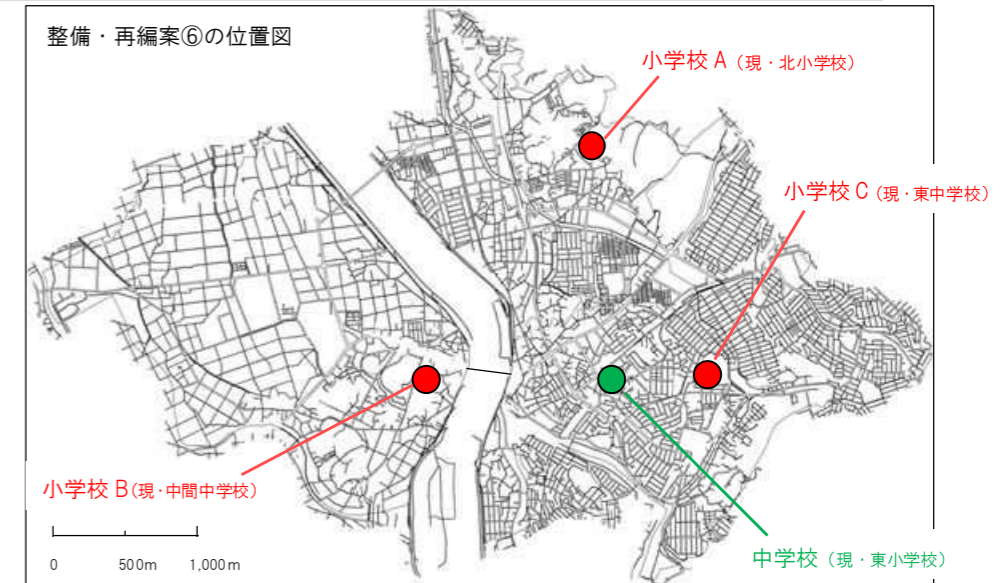
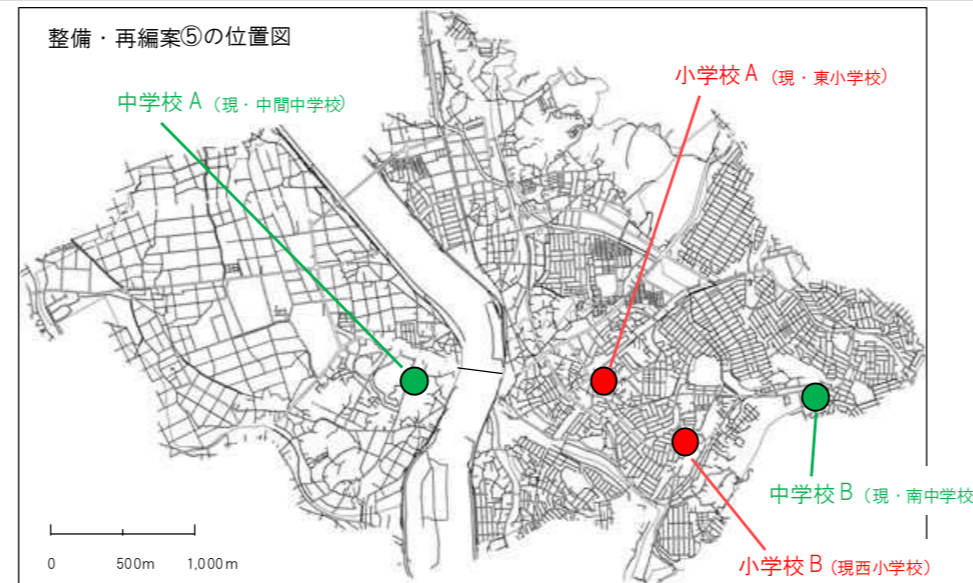
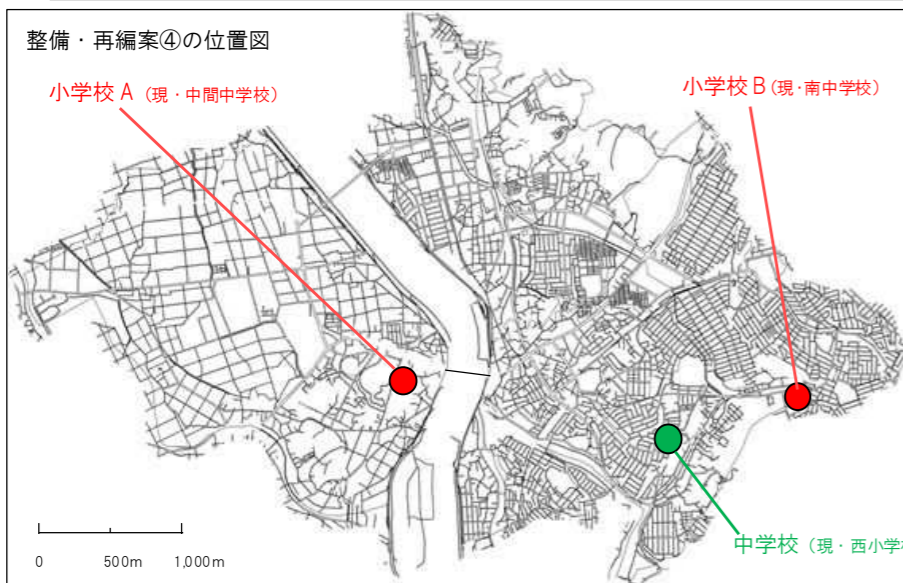
再編案①	
特徴	<ul style="list-style-type: none"> コミュニティ広場の各施設が移転もしくは廃止された場合にその跡地に小学校と中学校を再編する案。 まちの賑わいの中心にあり、徒歩以外の通学にも適しているが、1つのところに集約するため、自転車通学や通学バスの運行の検討が必要。
メリット	<ul style="list-style-type: none"> 学区間の不公平感がない。 小中連携教育が望める。 将来の学校再編が必要ない。 仮校舎が必要ない。 維持管理費の大幅な削減。
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> 他の公共施設の動向に影響を受ける。 教員の負担が増える。 小学校が過大規模過ぎる。

再編案②	
特徴	<ul style="list-style-type: none"> 再編案①より施設環境を広く余裕をもたせるため、小学校と中学校を別の場所にそれぞれ再編する案。 段階的な再編が可能。
メリット	<ul style="list-style-type: none"> 案1より施設空間に余裕がある。 段階的な再編が可能。 将来の学校再編が必要ない。 仮校舎が必要ない。
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> 他の公共施設の動向に影響を受ける。 小学校と中学校が隣接しないのため、小中一貫校としての教育カリキュラムの構築は難しい。 小学校が過大規模過ぎる。

再編案③	
特徴	<ul style="list-style-type: none"> 市の中心部に位置し、小中学校が隣接、敷地面積、延床面積が大きく、土砂災害警戒区域や浸水想定区域に指定されていない現存する学校施設を活用した1小学校1中学校に再編する案。
メリット	<ul style="list-style-type: none"> 他の公共施設の動向に影響を受けない。 将来の学校再編が必要ない。
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> 小学校が過大規模過ぎる。 東中学校の法面改良、西小学校の住民理解が必要。 2校の位置のバランスが悪い。 西部地域からは距離があるため、自転車通学や通学バスの検討が必要。

再編案④、⑤、⑥ 比較検討資料【小学校 2から3校、中学校 1から2校】

案	再編後の学校数		再編後の学校配置	敷地面積 (㎡)	必要面積 (㎡)	建設費用(億円)		市費負担額(億円)		純売却益 (億円)	維持管理費 (万円)	2019年			2040年		
						新築	長寿命化+増築	新築 (建設費用*0.2)	長寿命化+増築 (建設費用*0.267) ※増築部分は0.2			児童・生徒数	学級数	規模別	児童・生徒数	学級数	規模別
④	小学校	2	(現)中間中学校	34,368	17,126	89.7	66.6	18.0	15.7	38.4	1,977万円	843	24	大規模校	445	17	適正規模校
			(現)中間南中学校	34,921	18,543							1,050	29	大規模校	566	21	大規模校
⑤	小学校	2	(現)中間東小学校	23,456	17,126	101.9	72.3	20.4	17.5	33.5	2,135万円	856	24	大規模校	474	17	適正規模校
			(現)中間西小学校	29,116	18,141							1,029	28	大規模校	537	20	大規模校
	中学校	2	(現)中間中学校	34,368	14,861							505	14	適正規模校	310	10	小規模校
			(現)中間南中学校	34,921	12,907							415	11	小規模校	215	8	小規模校
⑥	小学校	3	(現)中間北小学校	30,274	15,816	102.3	72.0	20.5	17.5	32.5	2,333万円	691	19	大規模校	375	14	適正規模校
			(現)中間中学校	34,368	11,113							393	12	適正規模校	205	9	小規模校
			(現)中間東中学校	47,879	16,928							817	24	大規模校	431	17	適正規模校
	中学校	1	(現)中間東小学校	23,456	19,713							920	24	大規模校	525	17	適正規模校



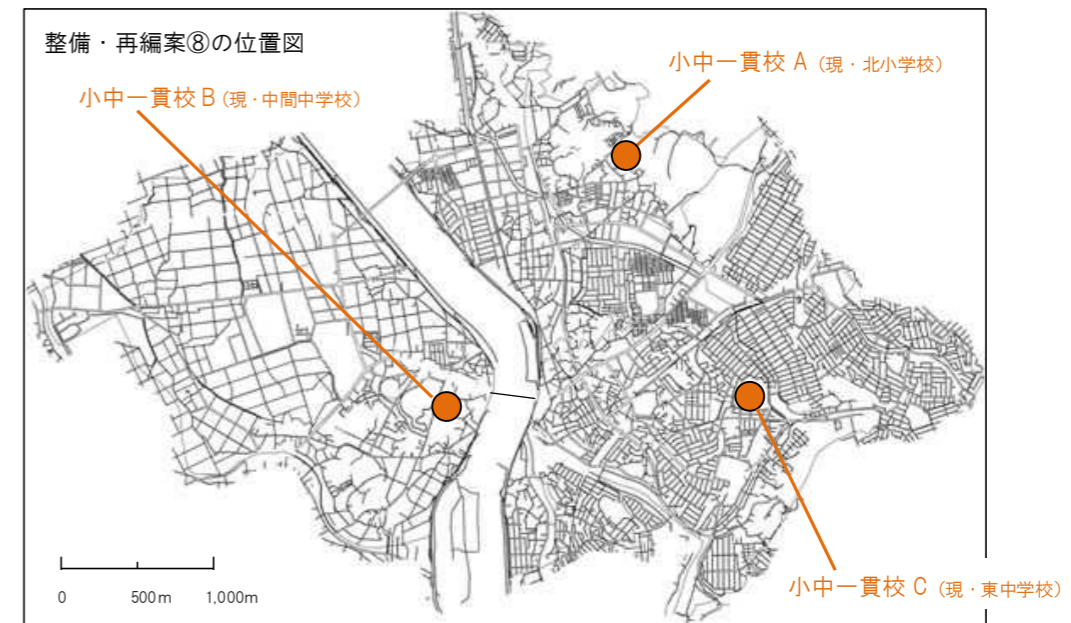
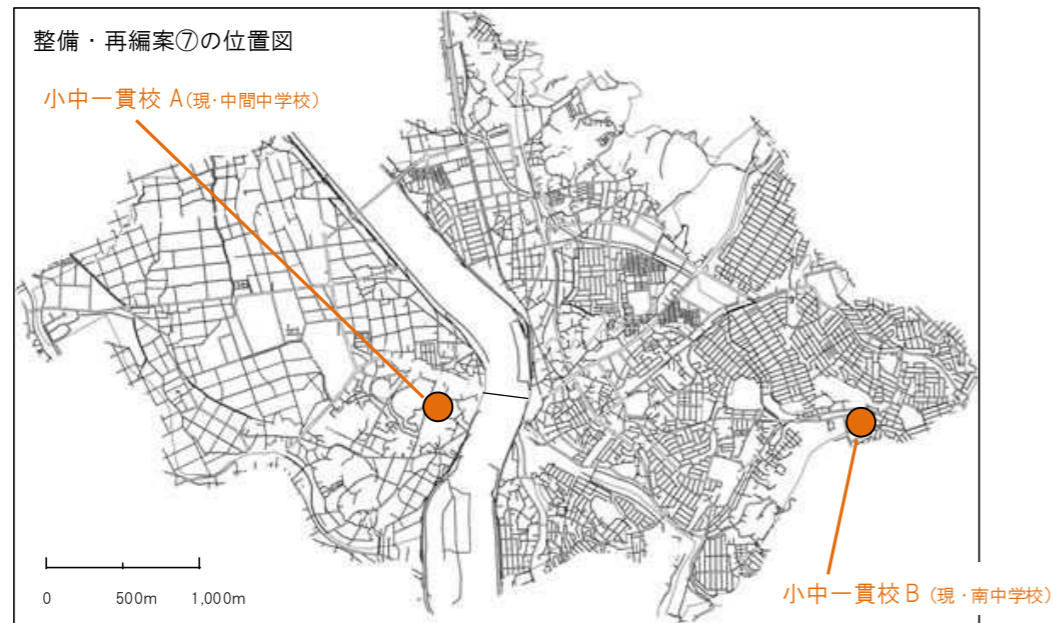
再編案④	
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・浸水や土砂災害の危険性がなく、建築基準法による高さ制限がない(現)西小学校に4つの中学校を集約し、左右に2つの小学校を(現)中間中学校と(現)南中学校に再編する案。
メリット	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の規模が近似。 ・3校の位置のバランスが良い。 ・建築基準法の制約を受けない。
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> ・(現)東小学校の校区を小学校AとBに改編。地域性のため、校区の改編が困難。 ・(現)中間小学校区域の通学距離が長い。

再編案⑤	
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の選択肢を残し、学校規模が過大とならない視点から2小学校2中学校に再編する案。 ・小学校は、土砂災害や浸水の恐れがなく、敷地面積に十分な広さがある(現)東小学校と校舎が比較的新しく、3校分の児童を受け入れることが可能な敷地面積がある(現)西小学校を選択。中学校は、西部地域の(現)中間中学校と東部地域で唯一公立学校と隣接し、将来の中高一貫校化の可能性を残すため選択。
メリット	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒数のバランスが良い。 ・小中学校ともに学校の選択肢がある。
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> ・売却施設が減少するため、財政負担軽減につながりにくい。 ・(現)北小学校通学距離が長い。 ・現存する学校を残して長寿命化と増築を行うことで経費削減につながるが、設計上に制限が生じ、廃止される学校の関係者からの反発が予想される。

再編案⑥	
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・できる限り現存する施設を利用し、3つの小学校同士の連携に重点を置いた再編する案。 ・市域のほぼ中央に中学校が位置し、三角形で囲むように小学校が3校配置されていることから通学距離による負担を最小限に抑えることができる。
メリット	<ul style="list-style-type: none"> ・学校位置のバランスが良い。 ・小学校間や小中学校間の交流がしやすい。
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> ・校区の大改編を要する。 ・売却施設の減少するため、財政負担軽減につながりにくい。

再編案⑦、⑧ 比較検討資料【小中一貫校】

案	再編後の学校数		再編後の学校配置	敷地面積 (㎡)	必要面積 (㎡)	建設費用(億円)		市費負担額(億円)		純売却益 (億円)	維持管理費 (万円)	2019年			2040年		
						新築	長寿命化+増築	新築 (建設費用*0.2)	長寿命化+増築 (建設費用*0.267) ※増築部分は0.2			児童・生徒数	学級数	規模別	児童・生徒数	学級数	規模別
⑦	小学校	小中一貫	(現)中間中学校	34,368	32,499	102.9	87.9	20.6	19.2	44.7	2,139万円	1,048	27	大規模校	561	20	大規模校
	中学校											472	12	適正規模校	296	8	小規模校
	小学校	小中一貫	(現)中間南中学校	34,921	30,907							847	24	大規模校	450	17	適正規模校
	中学校											453	13	適正規模校	232	9	小規模校
⑧	小学校	小中一貫	(現)中間北小学校	30,274	26,667	125.7	102.7	25.2	22.9	37.0	2,615万円	691	19	大規模校	369	14	適正規模校
	中学校											281	9	小規模校	169	6	小規模校
	小学校	小中一貫	(現)中間中学校	34,368	20,295							393	12	適正規模校	202	9	小規模校
	中学校											237	6	小規模校	145	4	小規模校
	小学校	小中一貫	(現)中間東中学校	47,879	29,590							821	24	大規模校	440	17	適正規模校
	中学校											409	11	小規模校	211	8	小規模校

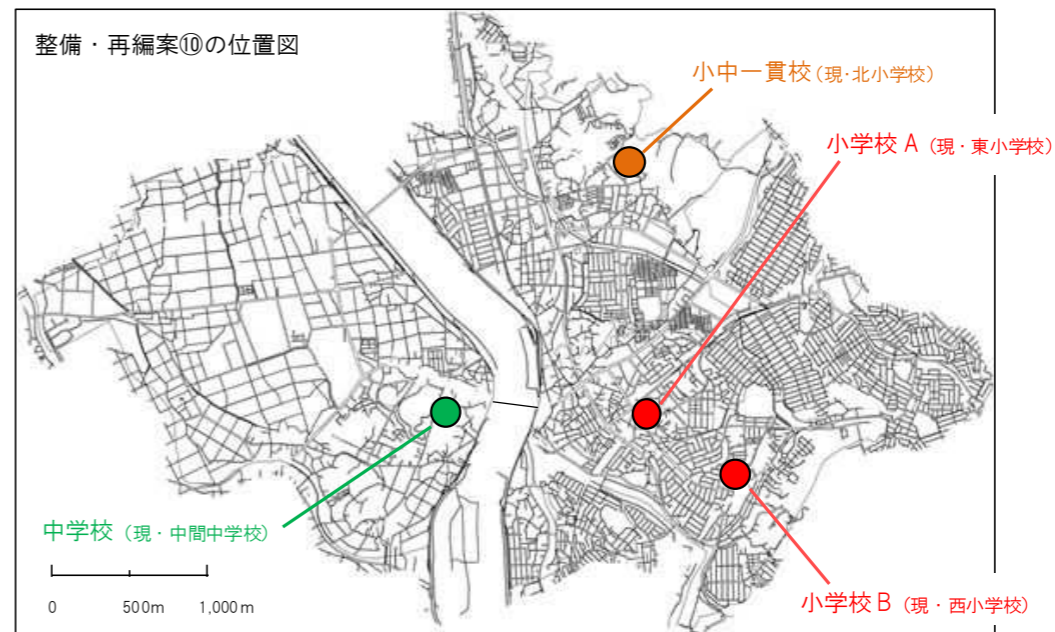
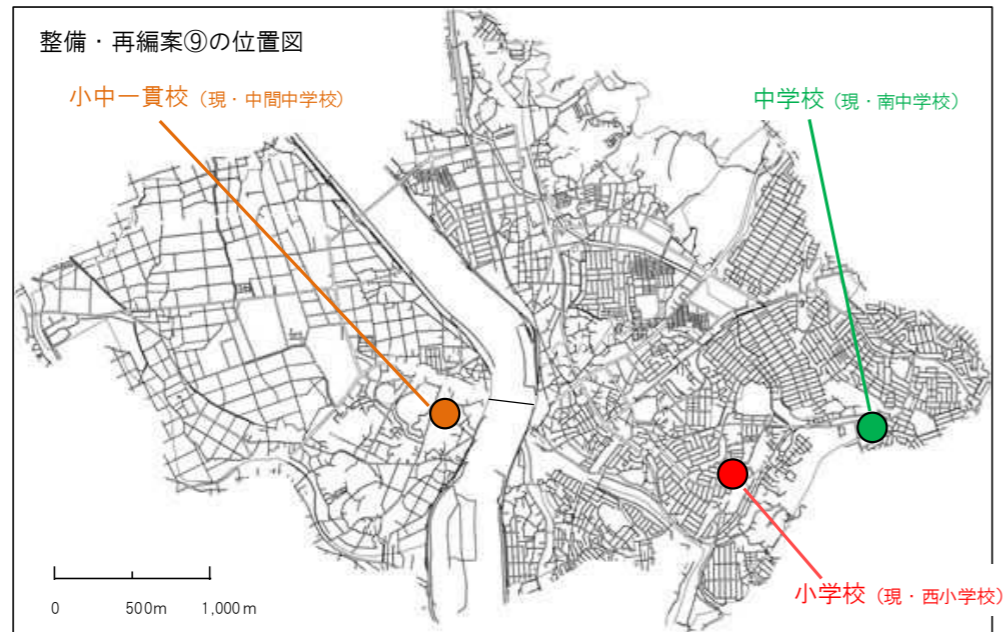


再編案⑦	
特徴	・市域の西部と東部に1校ずつ小中一貫校を配置し再編する案。
メリット	・小中一貫校の推進。 ・小中一貫校同士の切磋琢磨。 ・建築基準法の制約を受けない。
デメリット	・(現)北小学校と(現)東小学校の校区の一部を改編し、それぞれの学校へ通学となる。 ・小中一貫校以外の選択肢がない。

再編案⑧	
特徴	・校区の再編を前提に通学距離による負担軽減を考慮した3つの小中一貫校に再編する案。
メリット	・小中一貫校の推進。 ・小中一貫校同士の切磋琢磨。
デメリット	・建設費用が高額。 ・小中一貫校以外の選択肢がない。 ・(現)東小学校、(現)中間小学校、(現)南小学校の校区の一部を改編し、それぞれの学校への通学となる。

再編案⑨、⑩ 比較検討資料【小中学校と小中一貫校の併用】

案	再編後の学校数		再編後の学校配置	敷地面積 (m ²)	必要面積 (m ²)	建設費用(億円)		市費負担額(億円)		純売却益 (億円)	維持管理費 (万円)	2019年			2040年		
						新築	長寿命化+増築	新築 (建設費用*0.2)	長寿命化+増築 (建設費用*0.267) ※増築部分は0.2			児童・生徒数	学級数	規模別	児童・生徒数	学級数	規模別
⑨	小学校	1	(現)中間西小学校	29,116	18,964	101.0	77.9	20.2	18.0	38.4	2,107万円	1,201	33	過大規模校	648	24	大規模校
	中学校	1	(現)中間南中学校	34,921	17,048							652	17	適正規模校	342	12	適正規模校
	小学校	小中一貫	(現)中間中学校	34,368	26,289							684	18	適正規模校	363	13	適正規模校
	中学校											268	8	小規模校	183	6	小規模校
⑩	小学校	2	(現)中間東小学校	23,456	13,916	114.9	85.8	23.0	20.2	37.0	2,541万円	563	17	適正規模校	299	12	適正規模校
			(現)中間西小学校	29,116	14,525							622	18	適正規模校	332	13	適正規模校
	中学校	1	(現)中間中学校	34,368	16,801							645	16	適正規模校	356	11	小規模校
	小学校	小中一貫	(現)中間北小学校	30,274	27,081							712	20	大規模校	388	14	適正規模校
中学校	281					9	小規模校	172	6	小規模校							

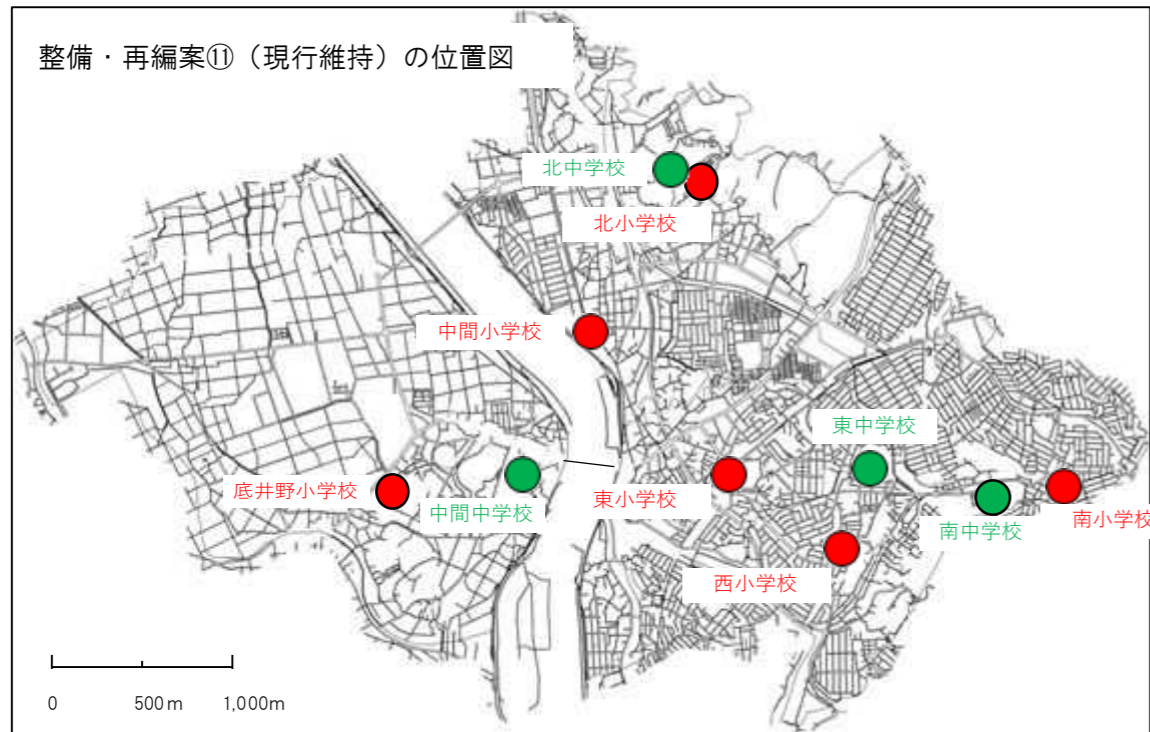


再編案⑨	
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・(現)西小学校に隣接する小学校を集約し、南中学校は通学時の負担を考慮して近隣の(現)東中学校を集約する。また、底井野校区、中間校区、北校区の児童生徒を(現)中間中学校に集約して小中一貫校とし、教育カリキュラムの観点で特性を持たせた再編案。 ・校区の改編を行わず、現行の校区を新小中学校に活かしている。
メリット	<ul style="list-style-type: none"> ・学校ごとの特色を作りやすい。 ・建築基準法の制約を受けない。
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> ・通学距離が極端に長くなる校区がある。 ・既存の小中学校に児童生徒を集約するため、校区間に不公平感が生じる。

再編案⑩	
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての学校を標準学級数に近い学校規模となるよう配慮し、2小学校、1中学校、小中一貫校に再編する案。
メリット	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒数のバランスが良い。 ・学校ごとの特色を作りやすい。
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> ・仮校舎の建設等で建設費用が高額となる。 ・財政負担軽減につながりにくい。 ・通学距離が長くなるため、自転車通学や通が通学バスの検討が必要。

再編案と現行維持の比較検討資料【小学校6校、中学校4校】

現行の小中学校名及び学校数			敷地面積 (㎡)	必要面積 (㎡)	建設費用(億円)		市費負担額(億円)		純売却益 (億円)	維持管理費 (万円)	2019年			2040年		
					新築	長寿命化+ 増築	新築 (建設費用*0.2)	長寿命化+増築 (建設費用*0.267) ※増築部分は0.2			児童・ 生徒数	学級数	規模別	児童・ 生徒数	学級数	規模別
小学校	6	底井野小学校	18,012	—	163.0	97.6	32.6	26.1	—	10,315万円	169	6	小規模校	80	4	小規模校
		中間東小学校	23,456	—							469	16	適正規模校	260	12	適正規模校
		中間小学校	27,066	—							218	9	小規模校	134	7	小規模校
		中間北小学校	30,274	—							297	12	適正規模校	149	9	小規模校
		中間南小学校	25,346	—							452	15	適正規模校	238	11	小規模校
		中間西小学校	29,116	—							280	12	適正規模校	150	9	小規模校
中学校	4	中間中学校	34,368	—	149	6	小規模校	112	4	小規模校						
		中間北中学校	51,148	—							119	5	小規模校	71	4	小規模校
		中間東中学校	47,879	—							356	11	小規模校	198	8	小規模校
		中間南中学校	34,921	—							296	9	小規模校	144	6	小規模校



再編案①	
特徴	・現行の小学校6校、中学校4校を維持した再編案。
メリット	・通学の負担が少ない。 ・これまで通り各小学校区の特徴に適した教育活動や地域活動ができる。
デメリット	・新築及び改築を行う場合、学校数が多いため、段階的な実施が必要。また、建設場所によっては、仮校舎の建設や近隣学校への児童生徒の移動が必要となる。 ・建設費用が高額となる。 ・維持管理費が高額となる。